

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100750		
法人名	社会福祉法人釧路啓生会		
事業所名	グループホーム きたぞの (ふきのとうユニット)		
所在地	釧路市北園1丁目1番20号		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年11月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100750-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境に恵まれユニット内の往来を始め、季節の花々、家庭菜園、外気浴、パークゴルフを楽しんでいただける。一人一人の身体状況を考慮し外出行事を細かにした。法人であり、修養が隣接してある事により非常時の強力体制がしっかりと共に行き、新人研修を始め内部、外部研修にも毎年多くの職員が参加している。家族さんとの信頼関係が築け、細かな協力をしてもらっており、地域交流の場もあたたかく、やさしい言葉掛けを頂けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<楽しみ事への支援>
利用者一人ひとりが事業所での生活に楽しみが持てるよう家族や本人の生活歴や普段の生活での関わりの中で細部に渡り聞き取りを行い、センター方式のアセスメントシートを活用して6ヶ月毎に見直しを行い、職員全員が共有し、日頃の散歩、中庭での外気浴、隣接の特別養護老人ホームの地域交流スペースで行われている舞踊やカラオケ等のコンプレクシブ行事や催し物に参加して気分転換や生活に変化を持たせるように支援しています。また、外出支援についても年間計画を立て、利用の状況を見極めながらドライブやカラオケ、買い物ツアー、ユニット毎に釧路動物園見学等も行っています。事業所内でも家族や地域のボランティアの協力を得ながら節分や敬老会、秋祭り等の季節行事や演芸会や盆踊り大会等の地域行事にも積極的に参加し、利用者一人ひとりが楽しめるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をホーム内数箇所に掲げ、職員一同が理念に沿ったケアを意識して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り上げ、日常業務や職員会議等を通じて共有し、その実践に向けて取り組んでいる。また、事務所や玄関の踊り場等に掲示し、理念に添ったケアを意識して取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等への積極的な参加及びコミプレ行事へ多数参加し、地域の一員として日常的に交流できるように努めている。又、ホーム内の行事に参加して頂き交流を深めている。	地域との関わりを大切にしながら地域活動や行事に積極的に参加し、法人行事や事業所行事では地域ボランティアの協力を得ている。また、中学生の職業体験学習の受け入れや地域の小学校の学芸発表会にも出かけ交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを年4回発行しホームの生活の様子を感じて頂いたり、地域との交流の際は支援の様子を知って頂く。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、ご入居者の生活状況を見て頂き、サービスの状況報告によりご意見を頂き、サービスの向上に活かしている。会議では、ご入居者を招きご意見を頂いている。更に年に1度家族会と合同し意見をいただいている。	運営推進会議は年6回実施し、事業所の活動報告や利用者の状況、日常生活の様子や防災訓練等の行事について具体的に話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの職員に運営推進委員になっていただき様々な意見を頂いている。運営推進会議録、ホーム便りを市役所担当者に提出しホームの状況を報告し、都度アドバイスを頂いている。	市の介護高齢課の担当者や包括支援センター職員との連携の重要性を認識し、運営推進会議や日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、毎月施設で行われる、委員会の報告等を通して、職員一同理解している。又、日常のケアでも身体拘束に触れる様なケアは行っていない。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、管理者及び職員は身体拘束廃止・虐待防止委員会の内部研修を通じて身体拘束をしないケアへの理解や認識をしている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修参加の他、フローア会議等で話し合い周知徹底している。身体観察を細めに行ったり、ふさわしくない言葉使い、表現等があった際は、直ぐに職員同士で注意し、徹底し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修を受けて理解に努めている。将来、必要になる方については、市役所に相談する等、活用出来る様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書にて十分な説明を行い、入居者、契約者からの疑問、不安な点に対しては十分に説明し、理解・同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、夏に家族懇談会を開催。運営推進委員の方も参加し、ご家族の意見を聞く機会を設けている。又、家族とは常にコンタクトを取りながら、何でも話して頂ける様な雰囲気作りにも努めている。	来訪時や家族懇談会、運営推進会議の参加を通じて意見を伺い、意見や要望があれば速やかに職員間で話し合い改善するように取り組んでいる。また、玄関先に意見箱の設置や外部者へ表せるよう重要事項説明書に苦情受付先を掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度、会議を開催する他、連絡ノート、引継ぎ等で意見・発言をし合い、日々のケアに反映できるよう努めている。	職員会議、日常業務を通じて意見や要望、提案を聞くよう取り組んでいる。また、年3回、個人面談を行い意見や要望、希望等を聞き、話し合う機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて上司との面接実施(一部職員)、毎月の会議、人材育成研修等を実施している。また法人の基準により、正職員・準職員に登用されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当職員は、採用後新人研修・3ヶ月研修・6ヶ月研修・1年研修と段階を踏んだ研修にて育成している。経験・能力に応じた研修も組んでいる。また、日々発生する課題やケア・サービスに関する改善を会議の場で自主研修し、施設内外の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡協議会があり、その中で他施設との交流、交換研修・スタッフ研修等に参加し、サービスの質の向上に努めている。運営推進会議の会議録を他施設と公開しあい参考にしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向や要望、生活が変わることへの不安等を傾聴し、その人の思いを大切にしながら信頼関係作りに努めていると共に他ご入居者との交流の橋渡しを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成に当たり家族さんの要望等を伺い作成している。又、家族の思いを察し話しやすい環境づくりと信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式活用にて以前の暮らしを把握し、本人と家族が必要としている事を聞き取りケアプランに挙げ対応して。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意とする事や出来る事を見出し、家事作業・軽作業等を通し共に生活を作り合う関係を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には来訪時、又は電話にて特変や近況を伝え、その時々に必要な協力や理解が得られている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしていた思い出の品々を居室に置き、馴染みの物に囲まれ過ごしていただいている。又馴染みの場所へのドライブ等を年中行事に取り入れ以前を懐かしみ楽しんでもらっている。	利用前からの生活歴や家族からの情報等、センター方式のアセスメントシートを活用し、本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう懐かしロードドライブを行い、懐かしみ楽しんでもらえるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士がコミュニケーションを取れる様に話題や余暇活動を提供し、生活感や趣味等気の合う仲間を見つけたり孤立しない様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も自由に訪問して頂ける関係作りに努め、要望等にも随時相談を受け入れる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に合わせた起床時間・食事時間、又、居室でゆっくりしたい方には寛いでいただきその時々本人本位の決定が出来る様対応している。	センター方式を活用し、日常生活で表情や会話からの情報収集や家族からの聞き取りで一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位の支援になるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用とご入居者との会話の中や、家族さんからの聞き取り等から、以前の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にご入居者の状況を確認し、介護日誌・連絡ノートを用い情報交換しながら、一人ひとりの生活のあり方や有する力等の現状を把握し維持に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームの気付きや日々の記録、フロア会議で情報交換・カンファレンスを行いながら作成している。又、作成に当たり家族さんの意見や同意を得ている。	本人がより良く暮らすためにセンター方式を活用してアセスメントを行い、本人・家族の意見や要望、カンファレンスで職員の意見を取り入れながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者の日々の状態(生活の様子・食事分量・排泄・体調の変化)を詳細にパソコン入力しいつでもどこからでも情報を共有出来るようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理栄養士による季節の行事食や特養での行事の参加、理容室・売店・喫茶店・温室等の利用。又、体調不良等の緊急の病院受診時には、特養所有の車両・運転手等の支援も行っている。あらゆる物の修繕の協力も得られている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(町内会の野外レクリエーション・盆踊り・小学校の学芸会・運動会)等に積極的に参加したり、小学生ボランティアとの交流を行っている。又、近隣を散歩し、個々の家に咲いている花々を觀賞する等し、暮らしを楽しんでもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆んどのご入居者は在宅時からのかかりつけ医を継続し受診している。他、ご家族の希望により精神科病院の訪問看護を受けるご入居者や、通院が困難な方は特養協力医による往診が行えている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、適切な医療が受けられるよう支援している。また、利用者や家族から希望があれば特養協力医による往診も可能な体制になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の特養看護師が巡回し日々の健康状態を相談しながら管理を行っている。ご入居者とも顔見知りとなっており、気軽に健康相談が出来る。訪問看護師も定期的に来訪し、現状を報告して指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者が入院した際は、問い合わせや協力依頼があった場合、速やかに対応できる体制があり、安心して治療出来る様、詳細な情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に病気や加齢に伴う身体低下時の説明やホームでの看取り介護について説明し、意向を確認している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を定期的を受けている。急変時や事故発生時のマニュアルをいつでも見られる所に置く他、会議等で繰り返しシュミレーションを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害・地震・行方不明時等の緊急時は隣接している特養との協力体制が整っている。近隣の住民にも町内会を通してお願いしている。非常召集連絡網を整備している。毎月のGH会議時にも防火避難訓練のシュミレーションを行い、的確な対応がとれるようにしている。	年2回の火災避難訓練の実施を行い、近隣住民や町内会の協力が得られるように働きかけて緊急時の地域との協力体制整備に努めている。また、隣接している特養との協力体制や毎月の職員会議でも避難の方法や手順について話し合い、職員全員が実践できるように取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の尊厳を尊重した言葉かけや対応に全職員が心がけて実践している。	身体拘束廃止委員会での研修会や勉強会で職員全員が理解し、一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応を心掛けており、プライバシーや羞恥心の配慮にも十分に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者個々の理解力に合わせた説明を行い、自己決定をして頂いている。また日々の会話の中から思いを汲み取り、その方が安心して暮らせる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向を優先し、ご入居者のペースで生活していただけるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご自分で選び着用しているご入居者、毎日のお化粧を身だしなみとしているご入居者もいる。髪は特養の床屋を利用出来る。ご家族と外出し、美容室でカット・パーマをする方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内で収穫した野菜、自分達で漬けた漬物を食べ、外食等も楽しんでいる。夏場の天気の良い日はベランダで外気を浴びながら食事をする事もある。又、家事作業は毎日行っている。	栄養バランスやカロリーを考え、朝、夕食は法人の管理栄養士が、昼食は職員が一人ひとりの嗜好を把握し、献立を作成して提供している。また、外食や外気に触れながら食事をする機会を作り、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・夕は隣接の厨房より管理栄養士による献立を提供、昼は日々のご入居者の意見や好みを参考にしている。又身体状況に合わせ調理を工夫しながら提供している。食事量・水分量を記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声がけ、見守り、援助を行い清潔を保持している。洗浄剤も定期的に使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを尊重し、排泄表を用いながら時間毎の違いを把握し個々に添った声がけ、誘導を行っている。	排泄のチェック表の活用から排泄パターンや習慣を把握し、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前にヨーグルトを飲んでいる。水分表を参考にし、不足の方には細めに水分を摂ってもらっている。運動や排泄リズムを守り行っているが、下剤を服用する事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタル測定し身体状況を確認している。各種入浴介助機具を揃え、安心して入浴を楽しめるよう行っている。入浴時間の希望も取り入れている。	週3回以上を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、利用者の身心の状態に合わせて福祉用具を活用して安全にも配慮し、利用者が楽しんで入浴できるよう会話を大切にしながら取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況の低下が見られる方には、AM・PMと休息時間を設けている。希望によりソファで横になる方もいる。就寝時間は身体状況、本人の生活習慣により自由に決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や薬品情報は個人ファイルに保存しつつでも確認でき、症状の変化時には、記録を基に情報の共有を図っている。又、介護員2名の確認で服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアの協力により、隣設する特養での催事への参加が増え季節ごとの行事を催し、日々の散歩も積極的に行っている。食事の下準備・片付け・掃除等を働きかけ役割を持ち張り合いのある生活が送れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴、散歩を日課とし取り入れている。その他、ドライブ・買い物・自宅外泊を希望に沿って行っている。ドライブはご入居者から好評なため毎月予定し家族さんと待ち合わせしてショッピングや外食を企画・馴染みの街や四季の変化を感じられる場所等を廻り、ドライブ先でのおやつも楽しんでいる。	日常的な散歩や外気浴、年度毎の行事計画を立て敬老会や盆踊り、ショッピングや動物園見物等にボランティアや家族の協力を得ながら支援している。また、一人ひとりのその日の希望にそって、ドライブや外食等戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じてお金を所持して頂いたり、預かったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者宛の手紙が届いた際は、すぐに手渡している。返事を書くご入居者もいる。電話の要望があった際は、意向に添い電話をかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を保ちながら整理整頓等に配慮しソファで自由に休んで頂き、リビングは花やアロマ等の季節が感じられる飾り付け等をし、居心地よい雰囲気づくりを工夫している。トイレにアロマスプレーを設置し使用している。	室内は適切な温度や湿度が保たれており、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間は季節毎の飾りつけや行事の写真を掲示し、広くゆったりと過ごせるスペースが確保されて、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、食事の席等が決まっており、ご入居者自身も自然とその席に座り、気の合うご入居者同士、会話が弾んでいる。トラブルが生じた際は、トラブルの原因を探りながら、座席替えを行ったり配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持ち込み、自室でゆったりと過ごされている。本人・家族と相談し、本人の好むものを居室に飾ったり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、本人や家族と相談しながら、自宅を使い慣れた家具や寝具、手作りの作品や家族の写真などが飾られて、本人が居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者一人ひとりの出来る事を各職員視点で挙げ、まとめ、その力を意向に添いながら発揮できるよう働き掛けている。自分でモップを用意し居室を掃除されている方もいる。状態に応じてセンサーを利用し安全を補強している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100750		
法人名	社会福祉法人釧路啓生会		
事業所名	グループホーム きたその (こごみユニット)		
所在地	釧路市北園1丁目1番20号		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者とご家族と一緒に楽しく過ごせる行事やご入居者が希望する場所への外出行事を行っている。中庭で季節を感じながらお茶を飲んだり散歩したりとご入居者間でのコミュニケーションもより図りやすい場となっている。他にも併設されている施設のイベントやGHでのボランティアによる楽器演奏等もご入居者には好評となっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100750-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年10月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通い易い場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は身近なところに掲げ支援に繋がっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や近隣の小学校行事の誘いを頂き参加している。又、小学生ボランティアとの交流も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月毎に広報誌を発行しホームの活動を紹介し、ご家族や町内会に配布している。又、運営推進会議の議事録を開示している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に年6回開催し、運営状況を報告しご意見を頂き運営に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月毎の運営推進会議に包括支援センターの方に参加して頂き、運営のアドバイスを頂いている。又、会議録は毎回市役所の担当者へ配布している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接する特養と合同の委員会を設けており、委員会で話し合われた事はGH会議で報告し、全職員に周知徹底している。玄関の施錠については、入居者が自由に開閉できるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隣接する特養と合同の委員会を設けており、GH会議の場で、委員会の報告、又はどのような事が虐待となるか話し合いを行っている。又、職員の心のケアにも注意・目配りし防止に努めている。ご入居者の身体の観察も常時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隣接する特養ホームとの合同研修を行っている。必要時には支援できる準備は出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約、重要事項説明書、入居のしおりにて説明し同意を得ている。又、変更事項や新たな事柄には家族懇談会や来訪時に説明し書面にて同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回ではあるがご家族、ご入居者の意見が反映できるよう家族懇談会に運営推進委員の方も参加し開催している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中で感じたこと・気づいた事は職員同士話し合いや連絡ノートを活用、又ユニット会議の場で話し合い反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて上司との面接実施(一部職員)、毎月の会議、人材育成研修等を実施している。また法人の基準により、正職員・準職員に登用されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当職員は、採用となると新人研修・3ヶ月研修・6ヶ月研修・1年研修と段階を踏んだ研修にて育成している。また経験・能力に応じた研修も組んでいる。また働きながらその都度指導をしたり、施設内外の研修も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会での研修等を通し他GHの職員と交流、研修内で意見交換等を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式の活用、又本人やご家族との会話を通し以前の暮らしや現在困っていること、希望等拾いニーズの把握し関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居者、ご家族が安心して生活を送れるよう、来訪時等にご家族との会話する機会を多く持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーと連携、又本人やご家族と話し合う場を設け支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや掃除等の作業を職員と一緒にしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力なくして本人を支えることはできない。そのためより多くのご家族が出入りしやすい雰囲気をつくることに努めている。行事への参加を呼びかけ、熱心な協力を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪ねて来れるような雰囲気作りを大切にしている。又、外出、電話等自由に行わせている。ドライブ行事では「馴染みの場所、思い出の地」めぐりを継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士にはその関係が保持できるよう支援し、又、自分の時間を大切にしている入居者に対しては本人の生活スタイルを尊重している。又、家事業等を通し協力し合う関係ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の場合も十分な情報提供ができる記録を準備している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用、又本人やご家族との会話から希望・要望を出来る限り取り入れ支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者との会話の中や、ご家族からの情報を得てセンター方式アセスメントを活用し情報を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが何をどこまで出来るか又、いつ声を掛け手を差し延べるかを見極め職員間で情報を共有し支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向と職員の気付き、日々の生活の状況等からケアプランを作成し、ご家族から同意が得られている。本人、ご家族には随時要望を聴き取りプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランや介護計画に沿った日々の状態・様子はパソコン内及びすぐに目の届くところにあり情報共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院の支援や本人の希望や要望がある場合、買い物・散歩・気晴らしのドライブなどなるべく希望が実現できる支援している。又、隣接する特養の喫茶店や理容室・売店なども随時利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防との協力体制については隣接する特養と一体で行っている。ボランティアさんの訪問により会食、音楽演奏等行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が巡回し日々の健康を管理、相談を行い、必要時にはかかりつけ医との連絡をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養看護師が定期的に巡回し介護職員はご入居者の健康状態や気づきを相談している。また、体調不良時には直ぐに連絡し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者との情報交換等に努め、退院後の生活に支障がないように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームでの看取り介護について説明し、意向を確認している。書面は個人ファイルに保管し、全員で情報共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災避難訓練、救命講習、地震非難訓練を定期的に行っている。火災、地震、水害、行方不明時の非常召集連絡網を整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している特養と連携をとり、火災、地震、水害時には救援にくる体制が整っている。近隣の住民にも町内会を通してお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう全職員が心がけ実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの理解力に合わせた説明を行い自己決定を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせてその人の思いや希望を優先しその人らしい暮らしができるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類が汚れた際にはその都度着替えを行い、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりが食べやすいように、その人に合わせ提供している。又、食事準備や後片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事を毎日記録し、栄養摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前の口腔ケアを行っている。一人ひとりの状態に合わせて、声掛けや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えない方には排泄表の活用で間隔を把握し、事前のトイレ誘導や声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声掛けや、健康体操又は歩行運動を取り入れ日常生活にリズムをつけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	寛ぎ、楽しんで入浴して頂けるよう時間を組んでいる。ご入居者個々の好みの温度を設定している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は個々が決めている。昼寝の時間も各自の意向に合せ、休息の時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は個人ファイルに綴り情報共有し出来ている。又、症状に対しての状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし、台所仕事や掃除を一緒に行っている。余暇活動時には、裁縫、唄、ぬりえ等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外食やご入居者の希望を取り入れ外出行事を行なった。又家族との外出も送迎をする等の支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブやショッピングなどに出掛ける時や、売店で買い物する時などは一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りは自由にできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が居心地の良い場所となるよう整理整頓している。又、ご入居者と一緒に庭から花を摘み飾る等し季節感を感じられるようしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の思いにそった場所でひとりになったり、他入居者と過ごしたり自由に過ごせる居場所を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の慣れ親しんでいる物や好みの物を家族や本人と相談して居室に飾ったり、手に触れることができるようにして安心でき居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの今できること等を十分に把握して、その力を安全に発揮できるよう支援している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	47	事故防止	・事故発生件数を減らす。	・今まで以上にヒヤリハットに対する意識を高め対応していく。 ・事故発生時は全職員で分析し今後の対応を周知徹底する。	12ヶ月
2	38	ご入居者が希望する活動の支援	・ご入居の要望を拾うと共に、声に出せない方の希望・要望を汲んだ活動を行う。	・コミュニケーションの中から希望する活動を把握する。 ・ご家族、アセスメントによ以前の生活を基に希望・要望を汲み取り実施する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。